



●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

高橋哲哉講演会 『私たちは望みを棄てない』に参加して

おおいたまスコミ 九条の会 三家本 稔

日本は「アメリカと一緒に戦争をする国」をめざし、同時に「日本人の心を蝕む恐ろしい国」になるうとしている。

高橋哲哉さんの講演でそう感じ、大きなショックをうけました。

私たちは、改憲勢力の標的、9条を守るため結集し運動を展開しています。

そして、国民の賛同が広がっています。

忌まわしい戦争を2度と経験したくないと国民の多くが思っていることは自明の理です。

法治国家として法律の善し

批判をしたり、流れに逆らった言動をすると、かたよった人間と呼ばれる。何故？

日野 詢城

日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

悪しで国民の生活が左右されるのは当然のことですが、法律だけに目がむいて、視野を狭くしていたら大変なことになると、わかりました。

国民の心にじわじわと国のいいなりになる愛国心をうえつけようとしている改憲勢力とりわけ靖国派の策謀があります。

国民が自ら考え、行動するのはなく、国の方針に素直に従う国民にするため、周到な計画がいま進行しているようにおもいます。

「美しい日本」にはじまった安倍内閣は、おおくの靖国派でかためられ、天皇を頂点とする

国体の再現をねらっています。

憲法をかえ、忠君愛国の教育を浸透させ、いったん緩急あれば、お国のために戦う国民をつくりあげようとしているのです。

かつて、靖国神社の、戦死者をまつる合祀祭の際、息子を失って悲しみにくれる母親が天皇陛下までが、息子に頭をさげられたと感涙にむせんだといわれています。

小泉首相がたびたび参拝した靖国神社について麻生外相は「民間にまかせたからため国営化して天皇の参拝を実現する」といっています。

国民の意識をかえ戦前にもどすことを靖国派は真剣に考えているのです。

天皇を中心にした国体で国民にとってわすれてはならないことのひとつに。

(以下は高橋哲哉著『戦争する国と愛国心』より)

1945年2月14日 近衛文

磨元首が昭和天皇にもう戦争をやめたほうがいいという進言をします。有名な「近衛上奏文」というもので、「このままでは

敗戦は必至です。そうなる国体護持が危うくなるので、もうやめたほうがいい」と近衛は言った。しかし、昭和天皇は「陸軍のほうは国体護持の保証はないといっている。もう一回戦果をあげて、優位な立場になつてからでない」と国体護持が保証されない、まだやめるわけにはいかない」と拒絶したのです。

進言する方も、拒絶するほうも国体護持が目的だったわけですから。

国体が護持されるという保証が得られるまでは戦争はやめられない。

この時が2月で、3月に入つて東京大空襲があり、3月末から4月にかけては沖繩戦が始まります。ここで膨大な被害がでます。

7月26日には、連合国から無条件降伏の「ポツダム宣言」がでました。

ところがもう国内は焼け野

原になつてゐるこの時にいたつても、鈴木貫太郎首相はポツダム宣言を黙殺するとして拒否しました。

そして8月6日、9日にそれぞれ広島、長崎に原爆が投下されます。

国体護持の確証が得られないとしてポツダム宣言を黙殺しただけです。

「1億玉砕も辞せず」天皇を守るためには、1億人の日本人が犠牲になつてもやむおえないというのが大日本帝国の最後の戦争だったので。

日本軍は国民の為にあつたのではない、天皇のための軍隊でした。

1億人が全滅しても天皇制がまもられていればいいと、そこまでいつてしまった。そこにあつたのは「個人の尊厳」とはまったく正反対の考え方でした。(こゝまで『戦争する国と愛国心』より)

改憲派の考えている危険な道は今着々とつくられていきます。

国民投票法は成立させたが改憲発議までの時間ももどかしく、アメリカの要求にかぎりなく近付けるため、有権者会議なるものをつくり憲法違反があきらかな集団的自衛権の検討にはいろいろとしています。

また個人の自主性を無視した愛国心を養うために教育基本法を改悪、言論、表現の自由を侵害する放送法の改悪などあらゆる面から攻撃がはじまっています。

かつての国体にもどすため手段をえらばずといったところでしょう。

しかし、改憲派にとつていちばん怖いのは世論です。

教育基本法改悪反対運動の盛り上がりとともに9条改定反対の人々も増えつづけています。6000をこえる全国の9条の会のひろがり、世論をかえてきています。

国民投票法の非民主的な欠陥を修正させ、真に国民主権にたつた法律として機能できるものにするには、これからの運動が重要だと考えます。

「07広島・阿蘇平和巡礼」との交流会に参加して

日田市 妙榮寺 掛橋泰定

5月19日、由布市見成寺様にて、日本山妙法寺の「07広島・阿蘇平和巡礼」団一行との交流学習会に参加させていただきました。今回、藤井日達上人の遺志を継ぐ日本山の方々とその趣旨に賛同する人々が、広島から阿蘇の間を、約20日間で600kmを唱題行進しながら、各地で平和の祈りを勤める「07広島・阿蘇平和巡礼」を行つていたのでした。

日本山といえば、『黄色いインド風の僧衣をまとい、団扇太鼓をたたきながら南無妙法蓮華経と唱えて行進している』教団として知られています。教団の開祖『藤井日達上人は、明治18(1885)年8月6日、熊本県阿蘇郡一の宮町坂梨に生まれた。大分県の白杵農学校に学び、最初は内村鑑三(1861～1930)の考えに魅かれキリスト教に、その後、日蓮(1222～

1282)の考え方・生き方に

出会う。明治36(1961)年、農学校を卒業と同時に白杵の日蓮宗法音寺で出家、翌年日蓮宗大学(立正大学の前身)に入学。さらに浄土宗大学院、真言宗学林、法隆寺勤学院、真言宗連合大学、臨濟宗建仁寺僧堂と、様々な宗派を学んだ。大正7年(1918)10月、中国の遼陽に最初の日本山妙法寺を建立する。その後中国各地をはじめ、国内外に日本山妙法寺が次々と建立された。昭和5年(1930)、母親の死をきっかけにして、仏法は必ずインドに帰ると信じインドに渡る。昭和8年(1933)、インド独立の父マハトマ・ガンジー(1869～1948)と出会い、マハトマの非暴力主義が仏教の教えに通じることを知り、マハトマもまた日達上人や仏教の絶対的非暴力主義思想に感銘を受けた。「わが非暴力」藤井日

達自伝より引用) 見成寺様に伺うと、当日は巡礼の休息日ということ、三々五々湯布院の町を散策したり、お風呂に行く方もあつたり、山門のあたりで3・4人が生垣をきれいに整えたり草を取つたり掃除をしたりと思ひ思ひの行をしておりました。集いの時間より早めに着いた私に、日本山の方が「あなたも今日から巡礼に参加されるのですか?」と聞いてきました。「当然」参加されるんではないか?という風な、ごく日常的な行事に参加を呼びかけるような態度で、それほどあなたにもそういう接し方をしていられるようで、尋ねてきた方には誰にでも、自主的になんのてらいもなく、にこやかに合掌し自己紹介しあう姿はファミリイというような感じでした。

時間になり、本堂で日野さんの司会のもとで交流会が始

まりました。車座になり、まず今回の巡礼の主導者、日本山の安田庵主さんや企画立案された在家の方のお話から始まりました。アメリカ先住民・キューバ系アメリカ人などとともに、日本各地からも参加した方々と、私たち地元参加者と、自己紹介を兼ねて憲法九条や平和への思いを語り合いはじめました。自主的に「巡礼に行きたい」と言って両親の許可を取って参加している関西から来た10歳の男の子や、今春高校を卒業したばかりの女の子、日蓮宗の若い2人のお坊さん、ネズミ男の格好で憲法九条の旗を持ち全国行脚している最中の「WALK・9条の会」の福岡やすおさん、福岡から見えた真宗のご住職夫妻、足が不自由で歩けないけど車の運転で巡礼をサポートしている方など、多士済々です。

「彼は喋るのが苦手だから」と話の輪にかたらず、黙々と平和祈念Tシャツの木版刷りをしている白人の青年もおりました。集いが終わりで彼の作ったTシャツを買おうと言いましたら、庵主さんが、「今日の集いに参加していただいただけで結構です。お金は要りません。ご供養で

すから。」と、志も受け取られませんでした。後である方から、「日本山のお坊さんや信者の方々は普段からなるべくモノを持つまいとしています。大事なものをすら他人にあげられるように努めるんですよ。」「今回の巡礼に限らず、彼らは見返りを求めず、他人を非難しません。自衛隊でも原発推進の電力会社でも、相手（の人格すべて）を責めるのではなく、あくまでも祈りによって相手の心に訴えかけ、平和を醸しだせるように努めていますね。私は日本山の僧侶ではないけれど、良いご縁を頂いてたくさんのご話を学ばせてもらっております。」というお話を聞きました。

普段の生活の中で常に平和を求め争わず、出会う全ての人の魂に呼びかけることこそ、私たちの勤めであるということを確認し、平和を求めるたくさんの方の賛同者がいることを喜べた交流会、ありがとうございました。

最後に、40名余りの方々を3日間 にわたり受け入れ、さらに会場を提供された見成寺の日野ご夫妻様ご苦勞様でございました。

合掌



高橋哲哉 講演会 感想文

□ 大変参考になりました。

□ 講演会はとてもよかったです。

□ 次は若い人を連れて来ましょうね、一人一人が。せっかくのいいお話なのですから。

□ ほんとうによい会をつくっていただきかったです。

□ これからも協力していきたい。大分の九条の会、全部集めて何かしたい。

□ 高橋哲哉さんのお話はわかりやすかったです。一人でも多くの人たちに、この現実の危機を伝えなければ、という意を強くしました。

□ わかりやすい講演でした。もっと勉強したり人と話したりして憲法を守る、平和を守らなければと思いました。特に若い人たちが心配です。

□ 高橋さんの著書は何冊か読みましたが、講演は分かりやすく、もういちど、読みなおしてみたいと思いました。豊後高田より思い切って来てよかったです。ありがとうございました。

□靖国神社の写真や映像は信じられないものでした。日本人というワクの中で生きることの息苦しさを感じています。

□非常に具体的な例をあげての講義で勉強になりました。ただ戦争反対だけでなく、今の政府のやろうとしていることをきちんと吟味してみる必要があります、とてもよい機会になりました。ありがとうございました。

□一、本日の先生の話はとても良く解りました。

二、非常に危険な状況の中で私達はあまりのんびりしすぎていたのではなにか。現状の政権者のねらいをはねかえすために、もつと歴史を知り、確信をもって大きなうねりを作らねばならぬと思います。運動の輪が小さい。

三、勉強会をどこでも開いて、あいまいな態度でなく確信をもって運動したいものだと思います。

□靖国神社が宗教法人だから、ではなく、戦争で死ぬこと・人を殺す行為を「国のため」と美化し名譽なことへ私たちの意識を変えてしまう錬金術である、という欺瞞にこそ、私たちは

目を向け反対の声をあげてゆかなければならないのだと思いました。すなわち、靖国神社を非宗教法人化することも、無宗教の追悼施設を別に作ることも、この問題の解決にはならないのだ

ということでした。今日は、日頃のご著書を通して知るだけだった高橋先生のお話を直接お聞きすることができてとてもよかったです。教育基本法・9条・靖国が運動していることを明確にわかりやすくお話しいただきありがとうございます。

□靖国派のやろうとしていることがよくわかりました。

□恐ろしい時代に生きていることを、ますます実感しました。あわせて今日に生きる者の責任を強く感じました。この話をもつともつと拵けて行きたいと思いました。マスコミが政府の思い通りに操作されることが怖い。国民を錬金する道具としてはあまりにも大きな力を持っているから。このマスコミを動かすのも、国民がもつと賢くなつて世論を形成して政府を動かすしかないのでしょうか。高橋哲哉さんの講演本当に有難う御座いました。

□大変参考になりました。話の中に出てきた「軍国の母」に限らず、戦争体験者の戦中・戦後の生き方を尋ねてみようと思いました。

□知ることはとてもこわいこと。でも知った以上はたまされまいぞと強く思ったことです。でもたまされやすい私たちがいるのです。このことをわかりやすく説明できる方法を知りたい。愛国心や右翼系の人を説得するキーワードを見つけない。

□とても分かりやすいお話でした。靖国神社のことについては、今では怒りがわいてくる話ですが、当時のかたはそれが当たり前というのがとてもこわいと思えました。日本が戦争する国になり、誰が得をするのか、なんのためにするのか、腹立たしい限りです。子や孫の時代を思うと何とかして9条を守りたい。国民投票法の実施の時まであきらめたくないです。ありがとうございました。

□9条実現の気持ちを新たに決意させられました。大戦に参加した者の一人として戦場に命を奪われた友に申し訳なく思う今日の世情、今日まで生か

れてきた責任を強く感じます。私にできることはなんだろうかと、日々考えて生きてゆきたい。ありがとうございます。

□主権者としてたまされまい。自分のできることをしていく責任をひしひしと感じました。

□しばりの問題、大変大切な時期にあること、その他よくわかってよかった。

□教育基本法は憲法と双子のようなもので、もうすでに教育基本法は改悪された。沖縄には憲法9条は未だに施行されていない。戦争の犠牲者は1%までゆるせるといふ考えを国民に植えつけようとしている。為政者は軍の神社として靖国神社をつくり、教育は忠君愛国心を植えつけた。246万と200万が合祀された。軍と靖国と愛国心の三点セットを復活させようとしている。安倍首相はまさかきを奉納した。伊勢神宮・明治神宮に参拝は大問題である。

□強権的に改憲、戦争への準備を推し進める安倍政権の中で、息が詰まりそうになりながら、今できることを止ま

らずにやり続けようと思っています。そんな中での今日の講演は私をとつてもエンプワーしてくれるものでした。私の将来、私が死んだ後の将来に、どんな未来を返すか、いま、問われていることを実感しています。無関心、無思考に覆われてしまった今の世の中で、「知らない間に」戦争の準備が進められても、最後の砦として、私たちのココロの問題があることを理解でき、まだまだ草の根での動きの意義の大きさを逃す手はないなど思えました。隣の人と話し合い、理解し合つて、大東亜共栄圏で出したまちがいを見つければ、当時とは違う形での地域主義を指し、住む人、暮らす人を尊重し、彼らとどろこえることのない政治を、主権者の一人として実現していきたいと思えました。本当にこの時期にこの話がきけてよかったです。

□小泉、安倍と云う戦後超弩級の独裁者は元、現の首相。国民の良識には聞かざるを全く持たない。(略)

若し集団的自衛権が成立していたら、イラクでも自衛隊員も戦死者が出ているのは確実でしょう。それも九条が守つてくれているのです。実践者としての中村哲医師の言葉を為政者は拝聴すべきでしょう。給水事業でも、医療活動でも無事故であったのは九条の賜物だと。戦

争で辛酸をなめた高齢者が自民党を支持している不思議さ。60年の風化の激しさを想う。高橋先生の冷静な話し振りには、大いに勉強になりました。立体的に絞つてゆかれる論証により理解が深められました。意義ある一刻でありました。(合掌)

□軍と靖国と愛国(心教育が戦争を支える構造が良く解りました。特に靖国は「国営化」、天皇参拝によつて、その意義が復活するのでしょうか。それには天皇制の維持と、「感情の錬金術」のための差別(天皇と庶民)の構造が必要。「愛国(心教育)のまやかもしつかりととらえたい。宗教学者が過ちを繰り返してはならない。そのためにもにがんばつていきましよう。『国民主権』なんだから責任は『国民』にある。その通りだと思ふ。気合いを入れてこれからとりくんでいきたい。ありがとうございます。【質問】私たちの側に貴重な示唆をして下さる高橋さんがいるのと同じように、改憲側、戦争を起さそうとする側にも「ブレイン」のような人がいると思うかどうか?というの、歴代の首脳にそれまでの能力があるとは思えない。さらに、強行採決の日程を見ても、シナリオが作られているように思える、その辺りがどうなのだろうか。

2006年度 宗教者9条の会・大分 活動の記録

【2006年】

- 5月26日 無着成恭講演会・発会式 於大分コンパルホール
- 7月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 創刊号発行
- 20日 第1回交流学習会 発題 日野詢城さん・藤田宏紀さん
- 8月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第二号発刊
- 9月 7日 第2回交流学習会 発題 大在紀さん・野口春夫さん
- 10月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第三号発刊
- 24日 第3回交流学習会 発題 掛橋泰定さん・釘宮義人さん
- 11月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第四号発刊
- 9日 ダグラス・ラミス講演会 於大分コンパルホール
- 19日 憲法9条と平和を守る大分県民集会」参加

【2007年】

- 1月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第五号発刊
- 25日 第4回交流学習会 ビデオ学習『戦犯たちの告白』
- 2月26日 第5回交流学習会 ビデオ学習『教えられなかった戦争』
- 3月 1日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第六号発刊
- 21日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第七号発刊
- 28日 第6回交流学習会 ビデオ学習『沈黙の歴史を破って・女性国際戦犯法廷の記録』
- 4月23日 宗教者9条の会・大分 にゅーす 第八号発刊
- 5月13日 高橋哲哉講演会・総会 於大分コンパルホール
- 19日 第7回交流学習会 「07 広島・阿蘇平和巡礼」との交流会 於湯布院

「宗教者9条の会・大分」2006年度（含準備年度）会計報告 ～2007.5.12

【収入】

会費・カンパ	533,270	会場カンパ	44,600
--------	---------	-------	--------

【支出】

公開講座	426,874	講師謝礼	130,000	ダグラス・ラミス	
		講師賄費	10,000		
		会場費	100,880	コンパル使用料	
		通信事務費	185,994	郵送料（1502通）	131,680
会にゅーす	122,133	通信事務費	122,133	郵送料	97,800
		印刷	15,000		
活動費	30,476	会議費	20,000	大分県民集会参加費	
		会場費	10,476		

収入 533,270 - 支出 579,483 = - 46,213

※単位 円

次年度の年会費納入・カンパをよろしくお願ひします。

会費・カンパ どうもありがとうございました。

日高幸男 林正道 横川香正 浄光寺 小峰恭丸 広瀬忠彦
掛橋泰定 広瀬邦照 橋原正純 木津英展 長久寺徳純 河野通成
法専寺 友成真子 大在紀 木内隆顕 小栗栖法秀 江口道孝
佐藤福子 松下和義 藤村憲雄 土田美奈子 大江憲成 菊池紀雄
菅原秀則 内幸美 佐々木淳二 藤並晃照 古谷聡 日野詢城
藤谷知道 手嶋紀生 霊鷲照玄 法音寺 高藤英則 有延美明
藤井敬久 飛河弘道 丸小野邦彦 吉川学 蔵山光堂 心光寺
立川教洋 松林暁子 草野裕子 河野光男 環文隆 睦美 宮脇利夫
清原えつ子 飯田幸子 宮崎優子 大原洋子 無着成恭 無着とき
掬月誓成（敬称略）

交流学習会

内容 今後の運営についての話し合い

期日 7月12日（木）

4時～6時

会場 願西寺 大分市今津留2-10-29

電話 097-558-8430

宗教者9条の会・大分
事務局

〒879-5102

由布市湯布院町川上 3561
見成寺

TEL 0977-84-2257

FAX 0977-84-5203

年会費 3,000円

郵便振替口座 01720-1-111731



編集後記

□「ゴールデンウィーク明けの八日夕刻仕事や学校そして買い物帰りの人たちの行き交う最中、おおいいたマスコミ9条の会をして俳句九条の会・大分のメンバーの皆様と一緒に「私たちは望みを棄てない（高橋哲哉講演会）」のビラ配りをしました。一時間ほどかけて、約千枚を駅前や街の中心部に配布しました。街の人たちの反応を直で感じる事が出来た貴重な体験となりました。なかには「高橋哲哉さんの講演をたった五百円の入場カンパで聴けるの」といううれしい声も聞くことが出来ました。

□高橋さんの講演会はとても緊張感あふれるひとときでした。質疑の時間も含めて短い時間でしたが中身の濃い充実したものとなりました。入場カンパの総額は「67,700円」です。およそ130数名ほどの入場者があったと換算できま

□講演会終了後、年度末の総会が開かれ、事業報告と決算報告がなされました。ご承認頂き有難う御座います。概略は今号の記事をご参照下さい。詳細は事務局までお尋ね下さい。

□さて宗教者9条の会・大分の「にゅーす」第9号をお届けします。事務局を仰せつかっております私の都合で発行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。特にご寄稿頂いた方には、早々に原稿を頂戴しながら、誠に申し訳ありません。新年度を迎え、また時局の進捗を鑑み、今一度、気を引き締めて仕事に努めたい所存であります。（E）